

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名 | 北 海 道

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	白老町立白老中学校					教員数
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	23
学級数	3	3	3	2	11	
児童数	94	92	119	2	307	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力が身につく、多様な学習活動を目指して  
 ~ 意欲的に学習に取り組む、指導体制・指導方法の工夫 ~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 習熟度別少人数授業 (3学級6展開)
- ・ 1年生・数学、英語 ・ 2年生・数学、英語
- 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため授業評価の効果的な活用方法
- ・ 全学年、全教科
- 自己評価能力の向上を目指した指導・支援方法の工夫
- ・ 全学年、全教科

(2) 年次計画

平成15年度

テーマ

確かな学力が身につく、多様な学習活動を目指して  
 ~ 意欲的に学習に取り組む、指導体制・指導方法の工夫 ~

研究の見通し

習熟度別少人数授業の効果的な実践方法を中心に研究を進める。

研究の内容・方法

(1) 必修教科における取り組み

~ 1・2学年、数学・英語の習熟度別少人数授業の取り組み (数英コース学習) ~

数英コース学習の集団編成・授業実施の手順

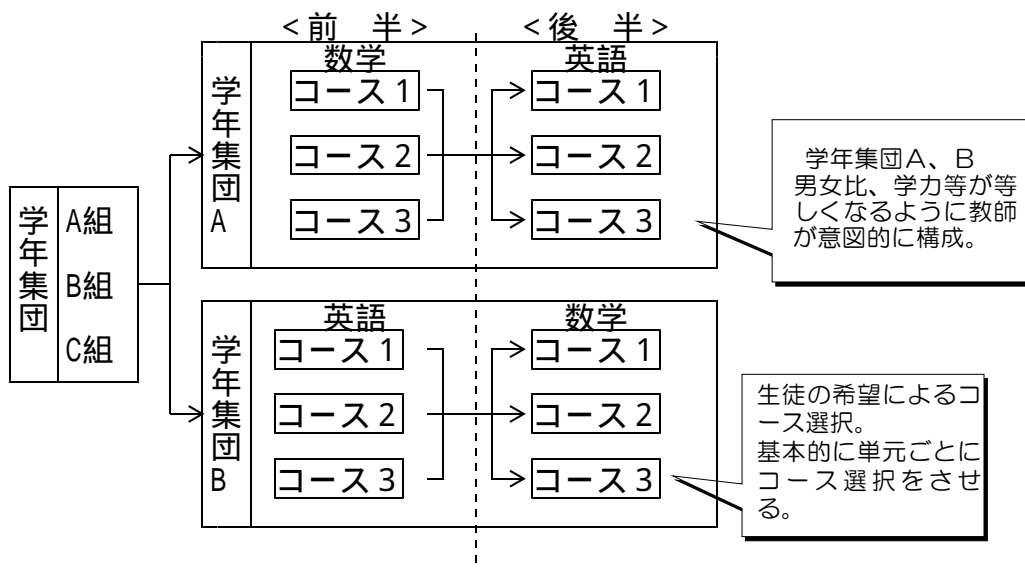
- ・ はじめに1ヶ学年を概ね等質の2集団になるよう教師が意図的に分割する。(年1回)
- ・ 各コースのねらい、学習内容等を十分説明し、生徒自身がコースを選択する。
- ・ 次に各集団をそれぞれ3コースに分け、数学、英語の授業を実施する。(生徒は、数学、英語を交互に学習する。)

数英コース学習のコース概要

- ・ コース1：学習速度は速め。発展的な学習の時間を設定する。
- ・ コース2：学習速度は普通。教科書の内容の確実な理解を目指す。
- ・ コース3：学習速度は遅め。既習事項を復習する時間を確保し、基礎基本の定着を目指す。

数英コース学習の指導概要

- ・ 通年ですべての時間を数学3コース、英語3コースに分け、6人の教師がそれぞれ指導をする。
- ・ 指導内容・方法はコースによって異なる。



(2) 授業評価による授業改善を目指した取組

実施方法

- ・学期末にアンケートによる授業評価を全校生徒に実施する。
- ・集計、分析し授業改善の指標とする。

具体的な研究内容

- ・分析 授業改善の有効な手だての開発と工夫

(3) 自己評価能力の向上を目指した取組

現在、自己評価の方法を下記の内容で研究中

- ・授業時における自己評価のあり方
- ・生徒自らが自己の学習状況(つまずきなど)を的確に把握し、自ら克服していくような学習支援の方法 など

平成  
16  
年度

テーマ

確かな学力が身につく、多様な学習活動を目指して

～意欲的に学習に取り組む、指導体制・指導方法の工夫～

研究の見通し

自己評価能力の向上を目指した教育実践を中心に研究を進める。

研究の内容・方法

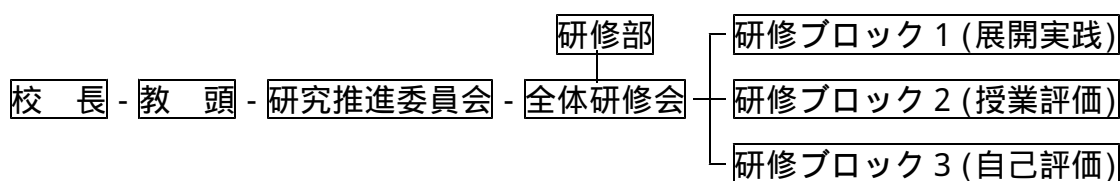
(1) 必修教科における取り組み

～数学・英語の習熟度別少人数授業の取組(数英コース学習)～

(2) 授業評価による授業改善を目指した取組

(3) 自己評価能力の向上を目指した取組

### (3) 研究推進体制



- (1) 研究ブロック1では、授業の展開実践として「数学・英語習熟度別少人数授業」を研究・実践する。
- (2) 研修ブロック3では、生徒自身が的確な学習コースを選択し、自分にふさわしい学習を進めていくためには堅実な生徒自身による自己評価の判断ができることが大切であることから、自己評価能力の向上について研究する。
- (3) 研修ブロック2では、「わかる授業」への授業改善を目指して、授業評価のあり方について研究する。

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- (1) 学習意欲の向上  
 少人数授業の実施により、  
 ・一斉授業より、個々の生徒にかかわる時間が増えた。  
 習熟度別授業をすることで、  
 ・個々の生徒の理解に応じた授業を展開しやすくなった。  
 一斉授業より、生徒が意欲的に授業に参加することができる。

コース学習(数学)と他の教科との比較

コース学習の方が授業を理解	しやすい	かわらない
	67%	33%
コース学習の方が授業に意欲的に参加	できる	かわらない
	62%	38%
コース学習の方が授業に参加したり、先生と話す機会が	多い	かわらない
	58%	42%
コース学習の方が自分にあった学力が	つく	同じ
	62%	38%

- (2) 知識・理解の向上  
 少人数授業の実施により、  
 ・生徒個々のつまずきに応じた学習支援がしやすくなった。  
 習熟度別授業をすることで、  
 ・生徒の学習効率が上がった。  
 一斉授業より、「わかる授業」を展開することができる。  
 より客観的なデータの査証は今年度末にC R T、N R Tを実施。

## 2. 今後の課題

- (1) 習熟度別少人数授業の学習コースの柔軟な編成  
全時間習熟度別による学力(知識・理解力)等質集団のコース編成を行っているが、異質集団による学習効果について再度検討する。
  - ・異質集団の中で、生徒同士が助け合い、学び合うことによる学力の向上についての研究
  - ・上記の実施場面(単元)の工夫
- (2) 少人数授業、習熟度別授業の特性を活かした授業の展開  
少人数だからできる授業、習熟の違いがあるからできる授業を模索し、個に応じた指導や支援活動を充実させる。
- (3) 自己評価能力の向上を目指した授業の構築  
自己評価能力と学力の相関関係について査証し、自己評価のしやすい授業展開等についての研究を深める。

### 学力等把握のための学校としての取組

- (1) CRT、NRTの導入
  - ・調査の目的：客観的な学力の把握
  - ・時期：学年末
- (2) 数、英コース学習の授業アンケート
  - ・調査の目的：生徒の学習意欲の把握
  - ・実施内容：質問紙法による
  - ・時期：単元ごと
- (3) 各定期テスト、学力テストの実施

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 保護者への啓蒙
  - ・保護者説明会の実施 [ 4月 ]
  - ・各種通信(学校便り、学年通信)
- (2) 地域への普及
  - ・新聞報道による普及  
室蘭民報社 [ 6/21 ] 苫小牧民報社 [ 6/18 ] 北海道新聞 [ 10/29 ]
- (3) 各学校への普及
  - ・白老町教育研究会(数学サークル、英語サークル)での授業公開 [ 9/4 ]
  - ・町内小中学校等に案内をしての授業公開 [ 11/21 ]
- (4) HPによる普及
  - ・平成16年度前半に開設予定
- (5) 教育実践発表会
  - ・平成16年度実施予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T.Tによる指導  
 その他
- 【研究教科）  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無